

企画展「大陸に夢を広げて 白岩龍平・白岩艶子夫妻の軌跡」 を開催します

戦後80年を機に、明治期から昭和戦前期まで中国で会社を経営し、日中の親善のために尽力して戦争に反対する姿勢を貫き通した実業家の白岩龍平と、その妻で閑谷学校を復興した漢学者、西毅一を父にもち、情感豊かな作品を残した歌人、白岩艶子の夫妻の資料を展示します。

1 日 時

令和7年7月10日(木)～8月24日(日) 10時～18時(木曜日は11時～19時)
平日の月曜日は休館(祝・休日の7月21日と8月11日は開館します)

2 場 所

岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール前の展示コーナー(北区二日市町)

3 内 容

明治期の岡山県政で活躍し、晩年は閑谷で後進の育成に心血を注いだ漢学者、西毅一(号、微山)を熱心に訪ねて教えを乞うていた若者、白岩龍平は、毅一の娘の艶子と恋に落ち、二人は結婚しました。龍平は世界へ羽ばたこうとした毅一の夢を引き継ぎ、大陸へ渡って汽船会社を起こすと、中華民国政府の要人の信頼を得て航路の開拓や電信網の建設に貢献します。そして民間の文化交流団体、東亜同文会に参画して日中の親善に尽くしますが、両国間に戦争が勃発すると一貫してこれに反対したものの、昭和17年に失意のうちに東京で歿しました。

妻の艶子は、歌人・佐々木信綱から指導を受け、夫婦で過ごした中国での体験をみずみずしい感覚で和歌に詠み注目されました。空襲を受けた東京を離れて、戦後は神奈川県葉山に住み、亡き父と夫を追懐しながら時世の転変と晩年の境地を詠んで新生面を開きました。

昨年、夫妻の資料が遺族から当館へ寄贈されたので、この機に代表的なものを展示します。

4 関連講座

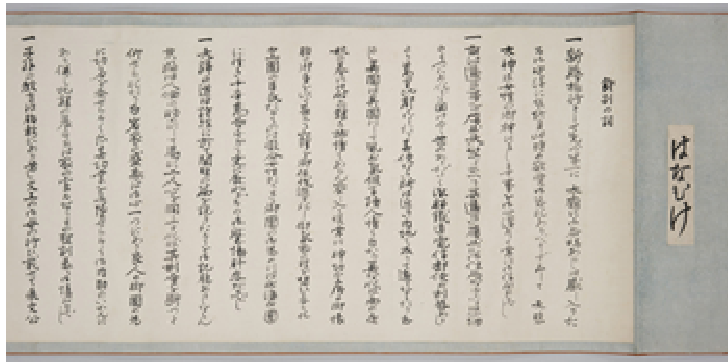
令和7年8月2日(土) 14時～16時 「白岩龍平・白岩艶子夫妻が駆け抜けた時代」
会場:岡山市立中央図書館 2階 視聴覚ホール 講師:当館 主査学芸員 飯島章仁
定員60名(事前の申込受付なし・当日先着順)、聴講無料

【問い合わせ先】

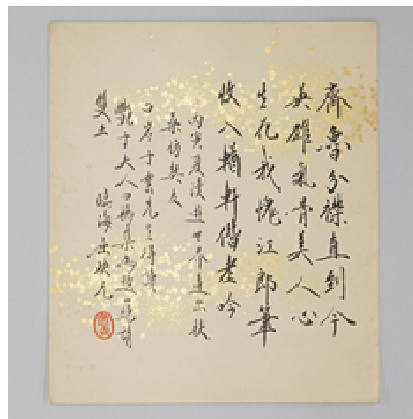
岡山市立中央図書館 飯島・杉野

電話086-223-3373

おもな展示品



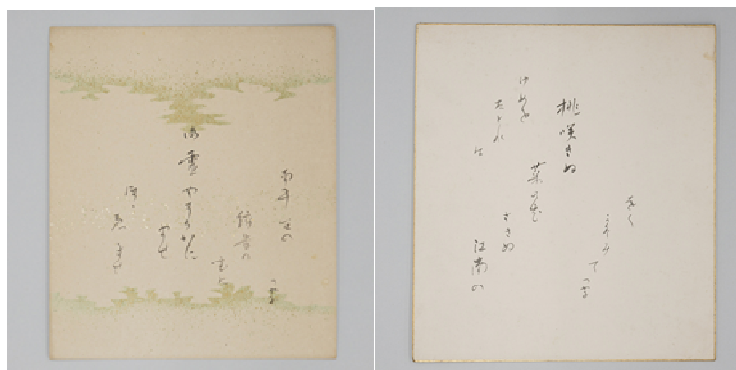
西穀一「艶子に与ふる餞別之詞」
(明治32年) 部分
結婚する艶子へ贈った餞別の言葉。夫と異国で暮らして行く娘を案ずる気持ちが記されています。



白岩龍平の写真(左)と、屈映光
(中華民国大總統府顧問を務めた政治家)が大正15年に白岩夫妻へ贈った詩の色紙(右)。



白岩艶子が中国での体験を綴り大正5年に発表して注目された歌集「白楊」(序文は佐々木信綱、表紙デザインは有島生馬)



白岩艶子の晩年の和歌の色紙
(左)南平台の縮図の室に 御霊
やすらかにませ ほゝゑませ
※渋谷区南平台は自宅があったところ
(右)桃咲きぬ菜の花さきぬ 江南のゆめをたどれば遠く霞みて